

第59回日本生体医工学会大会開催報告

The 59th Annual Conference of Japanese Society for Medical and Biological Engineering

会長 成瀬 恵 治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 システム生理学)

Keiji Naruse (Department of Cardiovascular Physiology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

2020年5月25日(月)～27日(水), 第59回日本生体医工学会大会と The 11th Asian Pacific Conference on Medical and Biological Engineering (共催) が開催されました。当初は岡山コンベンションセンターでの開催を予定していましたが, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大の情勢を鑑み完全 WEB 開催にいたしました (図1)。3日間の会議に国内外から1,350人の参加を得ることができました。岡山での開催は1998年5月に倉敷で行われて以来となります。

日本生体医工学会は, 1962年10月に日本ME学会として創立されました。生体医工学は, 医学に工学技術を取り入れて, 生命現象を明らかにするとともに, 診断や治療に有効な手段を提供する分野です。

本大会のテーマは「生体医工学のグローバル展開に向けて」で, 国際学会と同時に開催予定でしたが, この

ような世界情勢により諸外国からの渡航制限がありましたが, 近年のIT技術の発達により ZOOM WEBINAR を活用しました。WEB 開催は初めての試みであり発表者の皆様には大変ご負担をかけましたが学問の歩みを止めないため, リモート・アクセス化のニーズ等に対応して学術集会の形態をより一層発展させていくため様々な準備・工夫をかさねました。一月半前に急遽現地開催から WEB 開催への変更であったため, 既に演題登録・プログラムは決定されていました。従って, 既存の第1～第8各講演会場に対して ZOOM 会議室・専属オペレータを割当て, 講演の補助およびセキュリティ監視などを行いました (図2)。

会長講演 (図3) に続き特別講演1は SUKI ボストン大学教授「Engineering and Physics in Respiratory Diagnostics and Therapeutics」, 特別講演2は山海筑波大学教授「サイバニクス革命: 人・ロボット・情報系の融合～装着型サイボーグ, 革新的サイバニックシステム, 医療イノベーションを中心に～」, 特別講演3は伊達岡山大学教授, 平木岡山大学准教授, 荒木岡山大学講師による「岡山大学病院における医用工学の実際」と題して講演いただきました。

緊急特別企画として「新型コロナウイルスと生体医工学～医療機器は新型コロナと「どう立ち向かうか」?」と題して最前線で活躍する木阪智彦先生 (広



図1 大会ホームページ



図2 オペレーションルームの様子



図3 会長講演風景

島大学トランスレーショナルリサーチセンター), 市場晋吾先生(日本医科大学 外科系集中治療科, 本学出身)が, 人工呼吸器, ECMO, Post コロナについて講演しました。

オーガナイズドセッションは基礎医学から医療機器までに関するセッションを開催しました。主なものとしてはPMDAセッション, 臨床研究法対応ガイドライン教育セミナー, 医工アウトプットを加速するこれからの産学連携, 新学術領域研究「宇宙に生きる」などがありました。県内高校生による研究発表も予定していましたが, 新型コロナによる登校停止措置に伴い大変残念ながら誌上発表となりました。ポスター発表も演題ごとにZOOM会議室を設置し, ポスターを共有しながら視聴者との熱い議論が行き交っていました。

情報交換会もZOOM1000を用いたWEB開催とし, 会長挨拶・乾杯, Young Investigator Awards表彰式, 次期大会長挨拶などに続き, Break-out機能を利用し5人程度のサブグループに分かれて盛り上がりました(図4)。若手による二次会も引き続き夜遅くまで開催



図4 オンライン情報交換会の様子

されました。

今回のWEB開催を通じて浮き彫りになった利点としては, ①移動時間が事実上ゼロ, ②交通費・宿泊費がゼロ, ③国内外招待講演者海外講演者の交通費ゼロ, ④スケジュールリングの自由度大等, 良いこと尽くめのようなのですが, オンサイト開催ならではのFace-to-Faceの深い議論, 偶然の出会いによる共同研究への発展などがかなり制限されたという感じがしました。オンサイトでの開催に加えWEB開催を併設するなど新たな学会の形態になる可能性があります。

最後になりましたが, 本大会開催に際して, 準備・運営に携わっていただいたシステム生理学スタッフ, 初のWEB開催を全面的にバックアップしていただいた(株)メッドの方々はこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和2年6月3日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
電話: 086-235-7112 Fax: 086-235-7430
E-mail: knaruse@md.okayama-u.ac.jp